

## 看護学部FDセミナー

### 「臨床判断能力の育成に向けて

### IBL(Inquiry Based Learning)の体験と活用」が開催されました

鹿児島国際大学看護学部FDセミナー

### 臨床判断能力の育成に向けて IBL(Inquiry Based Learning)の体験と活用

2023.6.19 西園 貞子

西園貞子先生(奈良学園大学保健医療学部教授)を講師にお迎えし、看護学部のFDセミナーを開催しました。看護学部では、従来の”知識を教え込む教育”から、”社会の要請に応えられる人材の能力育成”にシフトし、教員のベクトルを「臨床判断能力の育成」にあわせて、学習を重ねています。今回は臨床判断能力を高めていく教育方法として、IBL(Inquiry Based Learning)教育プログラムを研究・実践しておられる臨床判断能力を育む西園先生から、講義だけでなく演習を交えてアクティブラーニングの実際を学ぶことができました。

#### 【IBL(Inquiry Based Learning)】

- ・ 数少ない不確かな情報から、問題を発見(仮説設定)する力をつける学習方法
- ・ IBLによって、僅かな情報を手掛かりに、推論—論証力を駆使して、状況に応じたオリジナルプランで対応できる看護実践能力の獲得・進展をめざす

IBLプログラムについての講義を受講しました。看護職に求められる看護実践能力は、社会人基礎力・学士力を基盤としていることから、社会の要請に応えられる人材として「推論—論証力」を鍛えていくアクティブラーニングの必要性を、講義と演習を通して学びました。



#### 【IBL(Inquiry Based Learning)教育の特徴】

##### 推論—論証力を鍛える演習

- ①5～6人のグループ構成する
- ②役割決定（司会、記録、時計係）し  
思考プロセスをすすめる
- ③4つの思考プロセス  
(事実→仮説→必要な情報→調べる項目)

#### 【IBLの学生への実践とは】

最後に西園先生よりIBLを学生に実践することについて、以下のまとめをいただきました。  
『学生が課題発見したことを、言語化していく課程を、教員が並走しながら「情報の提供」「思考の活用：学生の思考を用いて次の展開の示唆など」を実施することで、学生の思考力が伸ばされ、学生自身が探求する喜びと確信を得る。』まさにこのことを、教員自身が体感した3時間でした。

## 伊敷キャンパス花通信 6月

6月の花といえば紫陽花が代表格ですが、他にもこんなに“らんまん”に咲いています。



バーバスクムウエディング  
キャンドルズ



チャイニーズハット



セイロンライテイア



ファンскарレット



ハツユキソウ



ペンタス

実は、下段の3種は7月が開花時期ですが、既に咲いているのは南国ならでは  
でしょうか。夏に咲くのにハツユキとは(?\_?)いかに？。  
初雪が降った風情からなのだそうです。涼しげなたたずまいに癒されます。